

平成28年度 事業計画書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. <平成28年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <基本方針>

- ①特定事業所加算Ⅱを維持する為、減算対応にならない範囲で可能な限り担当する。
- ②公平中立な立場から可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、又、自己決定ができるように援助する。
- ③積極的に研修に参加し介護保険を取り巻く状況の変化をいち早く捉え、学んだ内容を事業所内で共有する。

3. <最終目標>

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく。
- ・施設利用となっても家族の思いを受け止め、決断に寄り添い精神的なサポートを行う。

4. <目標>

①介護支援専門員としての資質の向上

A) ケアプランの質の向上

- ・マニュアルに沿ってケース記録を整理し分かりやすいファイリングを行う。
- ・定期的に職員相互でケアプランチェックを行い、プランニングの質の向上に努める。
- ・週1回事業所内で会議を行い、ケースについて一人が悩み考えるのではなく、事業所全体で問題の解決方法を探っていく。

B) ケアマネジメントの学びと後進の育成

- ・ケアマネジメントに関する研修会等に参加し、事業所内で最新の情報を会議等で共有する。
- ・ケアマネジャー連絡会等への参加により他事業所との情報交換に努め情報を得る。
- ・法定研修等における実習生受け入れ事業所に向けた体制の整備。
- ・地域ケア会議における事例提供や事例検討への積極的な参加。

②連携の強化

A) ケアマネジャー同士の連携

- ・担当が不在でも利用者や家族が困らない様、記録を充実し内容を分かりやすく整え対応できるようにする。

B) 地域包括支援センターとの連携

- ・対応困難な事例に関しては、併設の地域包括支援センターへ相談し、連携をして対応する。

C) 医療との連携

- ・利用者の入・退院時には病院の担当者との情報交換を行う。
- ・在宅医との連絡を取り、利用者への支援内容・支援方法について意見を求める。

③相談しやすい環境作り

- ・生活上の些細な事柄に対してもきちんと受け止め対応をする。
- ・特定事業所として24時間、365日電話対応可能な体制を併設の地域包括支援センターと協力して行う。
- ・地域行事等に参加し、地域の方々と顔なじみの関係をつくる。
- ・施設への入所相談やターミナルケア、入院時の相談等、介護保険請求に至らない事例においても丁寧に対応し、相談者の不安を軽減していく。

④その他

- ・担当者毎の避難場所リストの作成
災害等で避難が必要となった時、早急に担当者の安否確認ができるよう、想定している避難場所をあらかじめ把握しファイルにて保管（緊急時の持ち出し資料とする）

5. <職員構成>

管理者	主任介護支援 専門員	介護支援専門員	認定調査員
1名	3名 (内1名は管理者兼務)	1名	3名